

第 18 号議案

令和4年度に中学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料(新たに発行される教科用図書用)について

令和4年度に中学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料(新たに発行される教科用図書用)について、次のとおり定める。

令和3年6月 11 日

滋賀県教育委員会

別紙のとおり

中学校教科用図書選定に必要な資料（令和3年度作成）

— 中 学 校 —

「選定に必要な資料」の活用について

社 会（歴史的分野）……………	1
参考資料……………	13

「選定に必要な資料」は、次の4つから構成されている。

- ① 観 点 の 内 容：「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を示したもの
- ② 調 査 方 法：カウントした内容・項目について説明したもの
- ③ 調 査 結 果：「観点のための研究調査事項」について○印を入れて示したもの
- ④ 選定のための参考：各発行者の特長を総合的に文章表記したもの

中学校教科用図書「選定に必要な資料」の活用について

滋賀県教育委員会

1 「選定に必要な資料」作成にあたっての基本的な考え方

- (1) 「選定に必要な資料」を作成するにあたっては、文部科学省の指導通知にもとづき、各採択権者において、より参考となるよう内容の一層の工夫・充実を図った。
- (2) 研究調査については、種目（教科）ごとに学習指導要領に示された目標を達成するための観点を中心として、「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を設定し、客観性を重視した。
- (3) 「観点のための研究調査事項」については、種目（教科）ごとに各発行者の特長を○印で示した「**調査結果**」を作成した。他の教科書との比較の上、その教科書で重きを置いている研究調査事項の3つに○印を付した。
- (4) 「**選定のための参考**」については、「**調査結果**」をもとに、種目（教科）ごとに特長を総合的に文章表記した。

2 「選定に必要な資料」活用にあたっての留意事項

- (1) 「**選定のための参考**」を熟読し、調査研究に活用すること。
- (2) 「**調査結果**」の○印のみに注目することなく、総合的に研究調査をすること。
 - ① 「**調査結果**」の○印と併せて、教科書での取扱い・取り上げ方についても、十分調査研究をすること。
 - ② 「**調査結果**」の元資料として、観点のための研究調査事項について、項目数やページ数をカウントして作成した「**調査結果（数値）**」を、参考までに資料の最後に添付している。
- (3) 「研究調査事項」については、「指導についての留意事項」で示した内容をふまえて研究調査に活用すること。
- (4) 「**調査方法**」については、種目（教科）ごとに示しているので、「**調査結果**」を見る際の参考にすること。

社会（歴史的分野）

東 京 書 籍

教 育 出 版

帝 国 書 院

山 川 出 版 社

日 本 文 教 出 版

学 び 舎

育 鵬 社

自 由 社

観点の内容

社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
2 A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識について理解させるための学習内容の箇所数 ・ 調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単に知識を身に付けるのではなく、基礎的・基本的な知識を確実に習得しながら、既得の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識として獲得するよう留意する。 ・ 小学校の社会科での学習を踏まえるとともに、高等学校の地理歴史科、公民科での学習を視野に、中学校社会科の学習において生徒が身に付けることが目指される技能を繰り返し活用し、その習熟を図るよう留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数 ・ 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする学習内容の箇所数 ・ 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習対象としている社会的事象自体が様々な側面をもつ「多面性」と、社会的事象を様々な角度から捉える「多角性」とを踏まえて考察するよう留意する。 ・ 現実社会において生徒を取り巻く多種多様な課題に対して、「それをどのように捉えるのか」、「それとどのように関わるのか」、「それにどのように働きかけるのか」といったことを問う中で、それらの課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめることができるよう留意する。 ・ 考察、構想（選択・判断）したことを、資料等を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとしたりするよう留意する。
4 C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数 ・ 社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解させるための学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象について主体的に調べ分かつようとして学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）したことを社会生活に生かそうとする態度を養うよう留意する。

調査方法

種目名【 社会 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識について理解させるための学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「中世」や「近世」といった時代の特色を踏まえた学習内容の箇所 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「中世の日本」を大観するなど、自分の言葉で表現する学習内容の箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「他地域とのつながり」などを踏まえた学習内容の箇所 ・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「環境問題」などを踏まえた学習内容の箇所 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「雨温図」を用いて気候の特色を捉えるなどの学習内容の箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「持続可能な社会」の実現を目指そうとするなどの学習内容の箇所 ・社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解させるための学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「対立と合意」に着目して考察しようとするなどの学習場面の箇所

調査結果 **社会(歴)**

	観点A		観点B			観点C	
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項 発行社	簡易に理解できる社会、政治、経済、国土、国際関係等に関する知識について、	調査や資料から様々な情報を身に付けて果的に調べようとする態度を身に付ける	社会的な事象の多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数	社会に現れる課題の解決に向けて選択・判断したりする学習内容の箇所数	思考・判断したことを説明したりする学習内容の箇所数	社会的な事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数	社会的な事象について、多面的・多角的に考察や深く理解させるための学習内容の箇所数
東京書籍	○	○			○		
教育出版	○				○	○	
帝国書院	○					○	○
山川出版社			○	○		○	
日本文教出版		○	○		○		
学び舎	○			○			○
育鵬社	○			○	○		
自由社	○	○			○		

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「学習課題」を示し、見通しをもって学習が進められるように構成されている。また、「チェック」課題が設定されており、「学習課題」に関連した問い（共通点や理由など）を本文から抜き出し、知識の確認ができるようになっている。 ・章末の「基礎・基本のまとめ」では、章で学習した内容の説明や年表などの資料から知識の確認ができるようになっている。 ・「スキルアップ」「集める」「読み取る」「まとめる」では、歴史地図やイラストなどの資料から、内容を読み取る課題が設定されている。また、「見方・考え方」では、他の時代の資料と比較しながら効果的に調べ、まとめられるよう工夫されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「トライ」課題が設定されており、時代による比較や特色をまとめるもの、歴史学習をふまえて現代社会における課題について考えるもの、単位時間ごとの学習内容を文章でまとめ説明するものが設定されている。 ・章の最後に「学習のまとめ」があり、文章を効果的に書くためのガイドがキャラクターの吹き出しによって紹介されている。 ・「みんなでチャレンジ」の課題では、グループによる対話などにより、学習内容を深めることができる。 ・「まとめの活動」では、思考ツールを活用し、時代や出来事の特徴を捉える課題が設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「歴史に学び、未来へと生かそう」では、歴史学習を振り返りながら、持続可能な社会の実現に向けて自分たちができることを考える学習が用意されるとともに、テーマ設定やまとめ方の例が紹介されており、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ・人物や「歴史にアクセス」などのコラム、「もっと歴史」という特設ページがあり、多面的・多角的に歴史を考察できるよう工夫されている。また、その内容が、環境・エネルギーなど教科書を貫く5つのテーマのどれであることを明示している。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	教育出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとの「学習課題」には、学習内容のポイントとなる言葉が用いられ、見通しをもって学習できるようになっている。また、「確認」課題が設定されており、その時間の学習を振り返りながら基礎・基本となる語句を確認することができる。 ・章末の「学習のまとめと表現」では、年表や歴史地図から知識の理解について確認することができる。 ・「歴史の技」では、写真や風刺画などの資料から、その時代背景を探究する発問が設定されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとの「表現」では、単位時間ごとの学習内容を文章でまとめ説明する課題が設定されている。 ・節ごとに「節のまとめ」があり、キーワードを用いて時代の特徴を説明する課題が設定されている。また、章の最後「〇章のまとめ」では、資料を活用し説明する学習がある。 ・各時代の最後には、次時に向けた「時代の変化に注目しよう」という課題が設定されており、次の学習内容に繋がるヒントとなっている。 ・「身近な地域の歴史を調べよう」では、単元の内容についてより詳しく調べ、新たに身近な課題を見つけ、より深い思考につながるよう設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「歴史を振り返って未来を構想しよう」では、歴史学習をふまえながら現代社会の課題について考え、よりよい未来を開くためにどのようなことができるかを考える学習が用意されている。また、現代社会の課題を考える際の参考として、「SDGsの17の目標」の紹介がされており、主体的に取り組める工夫がされている。 ・「歴史の窓」というコラムや、「身近な地域の歴史を調べよう」「歴史を探ろう」という特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察するための学習が用意されている。特に「歴史を探ろう」では、中世の女性や子どもの労働、近世の江戸のリサイクルなど、現代社会の課題とも関連するテーマが取り上げられている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	帝国書院
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・節のはじめには、節を見通した問いが掲載されているとともに、節の問いに対応した「学習課題」が設定され、見通しをもって学習を進めることができる。 ・小单元ごとに「確認しよう」という課題が設定されており、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげることができる。 ・「タイムトラベル」では、文章だけではイメージが難しい内容について、イラストによって視覚的に確認できる。また、タイムトラベルと関連した内容については、本文に注釈として赤字で記載されており、分かりやすい。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとの「説明しよう」では、単位時間ごとの学習内容を文章でまとめ説明する課題が設定されている。 ・時代の区切りごとに、その当時の様子を描いた「タイムトラベル」のイラストがあり、図を比較させて時代の特色を考えさせるようにしている。 ・章の最後では、時代の特色を説明させるポイントを「ステップ」ごとに示し、まとめの文章を書くためのガイドとなっている。 ・「歴史学習のまとめ」では、未来に向けて、現代の課題について考える設定となっている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「多面的・多角的に構想する—未来に向けて」では、現代社会の課題を一つ選び、歴史学習をふまえながら、その課題解決に向けて何をしていくべきかを考える学習が用意されている。また、その課題の歴史的な経緯を整理したり、最後に80年後の未来に向けてメッセージをまとめたりする活動が設定されており、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・「人物コラム」「未来に向けて」「地域史」「歴史プラス」といったコラムや、「歴史を探ろう」「イラスト世界地図」「多面的・多角的に考えてみよう」といった特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察するための学習が豊富に用意されている。特にコラム「未来に向けて」では、環境、交流、人権、平和の4つのテーマが明示されていたり、「歴史を探ろう」のページでは関連する事項とそのページが明示されていたりするなど、学習の視点が分かりやすい。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	山川出版社
観点	選 定 の た め の 参 考	
<p style="text-align: center;">A</p> 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「学習課題」が示されており、単元で学習する内容について理解し、見通しをもって学習が進められるようになっている。 ・本文に記載される人物や語句についての小問題が設定されている。 ・「身近な地域を調べよう」では、調査のスキルを身に付ける方法が細かく提示されている。例えば、テーマを見つける方法や聞き取り調査の注意点など、具体的な場面が示されている。 	
<p style="text-align: center;">B</p> 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「ステップアップ」課題があり、時代の特色や変化を考えたり、それらを説明する活動が設定されている。 ・各ページにある、写真や地図といった資料には、資料をより深く読み取らせるための「付せん」がついており、特色を確認しやすい。 ・章の最後にはまとめの学習があり、時代を説明する課題が設定されている。 ・歴史学習の最後の「ステップアップ」では、それまでの歴史学習をふまえた上で、現代の課題について考えさせる課題が設定されている。 	
<p style="text-align: center;">C</p> 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・第7章のまとめ「現在の世界はどこへ向かっているのだろう」では、平和で誰もが暮らしやすい社会をつくっていくために、解決すべき問題点とその解決策について考える学習が設定されている。ここでは、解決すべき問題点の分類例が4つ挙げられており、主体的に取り組めるよう工夫がされている。 ・人物や歴史事象のコラムや、「歴史へのアプローチ」「地域へのアプローチ」「歴史を考えよう」といった特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察できる学習が設定されている。特に「〇世紀の世界」や「歴史へのアプローチ」では、琉球やアイヌ民族などとのつながりや、日本を諸外国との関係から捉える工夫がされている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	日本文教出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに示された学習課題に対して「見方・考え方」を示し、見通しをもって学習することができる。 ・「資料活用」では、写真や絵画などの資料を読み取る学習活動が設定されている。資料は比較的大きいサイズになっており、読み取りがしやすい。 ・各章末「学習の整理と活用」の「アクティビティ」では、課題についての振り返りを行い、それぞれの時代の特色をまとめることができる。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに学習課題を考える「深めよう」という課題があり、時代の特色を考えたり、比較して考えたりすることができる。また、「確認」課題が設定されており、時代の特色やその時代が与えた影響などを文章でまとめ説明することができる。 ・章のはじめに、時代の特色や違いを資料を用いて考えることができる課題が設定されている。また、各章末の「アクティビティ」では、内容を深めるポイントをステップで示しながら文章にまとめる課題が設定されている。 ・「チャレンジ歴史」では、資料をもとに対話などで学習を深める課題がある。 ・歴史学習の最後では、「歴史との対話を未来に生かす」というテーマで、過去の歴史から現代の課題を考える設定がされている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「『歴史との対話』を未来に活かす」では、現代社会の課題を取り上げ、歴史を振り返りながらその課題の成り立ちや変遷、それらの課題解決に向けた先人の取り組みについて考える学習が設定されている。ここでは、3つの課題例とテーマ別のさくいんが示されており、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・「女性史コラム」「歴史+α」「地域に学ぶ」「先人に学ぶ」といったコラムや、「歴史を掘り下げる」といった特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察する学習が設定されている。特に、生活の向上や文化の発展に取り組んだ先人、各時代の女性の姿といった人物に焦点をあてることで、歴史を捉えるといった工夫もされている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	学び舎
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに追究する学習課題を焦点化し、本文を読んで理解するためのめあてが設定されている。また、民衆、特に子どもや女性など歴史の裏に隠れがちな人々の視点で本文が書かれ、時代の特色がまとめられている。 ・「章をふりかえる」では、年表や歴史地図から知識に関する内容を確認することができる。 ・「歴史を体験する」では、フィールドワークをイメージした調査活動の方法がまとめられている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「章をふりかえる」では、その時代の特徴となるものをあげ、時代の特色を考える問いがある。 ・歴史学習最後のまとめでは、それまでの学習をふまえながら、現代における国際社会の課題について日本がどうすべきかを考える課題が設定されている。 ・各部、各章の最後には、「ふりかえり」「まとめ」の学習があり、時代の特色を説明したり、出来事について考えたりする課題が設定されている。 ・「歴史を体験する」では、実際にその当時の様子を再現し、体験から考える学習が設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・第6部の学習のまとめ「歴史を現代とつなげて考えを深めよう」では、歴史の諸課題について、現在から見て「乗り越えられた課題」か「現在も課題となっていること」かについて分けながら考える学習が設定されている。ここでは、友達と意見交換する活動があり、その例を提示することで主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・多くのコラムが設けられ、歴史を多面的・多角的に考察する学習が設定されている。特に歴史の舞台に焦点をあてた「フォーカス」というコラムは、見開きの最初に配置され、時代背景を理解したうえで、学習を進められるよう工夫されている。また、歴史を多面的・多角的に捉えるためのコラムでは、見開きの最後に配置されており、紙面の構成が工夫されている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	育鵬社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに追究する学習課題を示し、見通しをもって学習が進められるようになっている。 ・「学習のまとめ」では、年表や歴史地図で知識に関する内容を確認することができる。 ・歴史人物カードを作成する課題が設定され、インターネットなどの情報を活用した調べ学習の方法が提示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元の最後には、学習課題について、時代の特色を比較したり、特徴を考えたりする課題が設定されている。 ・現代史を振り返る学習では、人口推移を扱うグラフを用いて、人口推移や年齢別割合から日本の課題を考えさせる問いが設定されている。 ・章の最後には「学習のまとめ」があり、時代を大観し、話し合う学習が設定されている。また、歴史学習の最後では、それまでの学習をふまえ、現代の日本の課題について考える課題が設定されている。 ・「歴史のターニングポイント」では、各時代の大きな出来事について、グループでの話し合い活動を行い、理解を深める課題が設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「歴史学習のまとめ」では、主体的に考える学習活動として、歴史で学んだことを将来どう生かしていきたいかを400字程度にまとめる課題が設定されている。 ・「人物クローズアップ」「歴史ビュー」「歴史ズームイン」などのコラムや特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察する学習が設定されている。特に、「このころ世界は」のページでは、日本の歴史と関わりの深い外国の動きについて取り上げ、世界と日本の主な出来事を比較する年表が示されるなど、日本を諸外国との関係から捉える工夫がされている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	自由社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の冒頭には、時代を大観する年表や史料が大きく提示されていたり、小單元ごとに学習課題が示されていたりするなど、見通しをもって学習が進められるようになっている。 ・「歴史の言葉」や「知っ得ポイント」、章末・節末の「もっと知りたいコラム」や「外の目から見た日本」などのコラムが多数あり、幅広い知識と教養を身に付けるための工夫が見られる。 ・章末ごとに「調べ学習のページ」が設定されており、現地訪問やインターネット等を活用した調べ学習の方法やまとめ方が提示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小單元ごとに発展的に考えさせる課題が設定されており、事象の特色や相互の関連について考えを深めるよう工夫されている。 ・「第6章 現代の日本と世界」では、小單元ごとに設置された「チャレンジ」において、解決すべき現代社会につながる課題が設定されている。 ・各所にキャラクターによる吹き出しの発言が記されており、その発言を基に思考、議論できるよう工夫されている。 ・章の最後には「時代の特徴を考えるページ」が設定されており、「『ひとこと』作文」など様々な学習課題から時代を大観できるよう工夫されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べ学習のページ」では、課題設定や現地調査等の例が示されており、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・歴史を学ぶ意義や日本の世界文化遺産、原子爆弾、東京オリンピック、東日本大震災についての特集ページが掲載されており、よりよい社会の実現に向けて考える機会が設けられ、学習内容の理解を深めることができる。また、「対話とまとめ図のページ」では、多面的・多角的に考察する工夫がされている。 	

参 考 資 料

調査結果（数值）

社 会（歴史的分野）

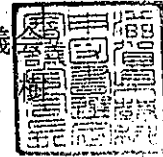
調査結果 社会(歴)

		観点A		観点B			観点C	
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項	筒数	いきる社会、政治、経済、国際関係等、現代の政	果的学習内容を調べるための学習内容を	相互的関係の多角的・多角的・特色や	の選択・判断した課題の解決に向けた	学習内容を基に議論したりする	数の社会的現象について、よりよい社	の社会的現象について、多面的・多
		理、概念などを活用する知識の活用	ける調査や資料から様々な情報を身に付	察する学習内容の筒数	て社会に見られる課題の解決に向けた	学習内容を基に議論したりする	数の社会的現象について、よりよい社	の社会的現象について、多面的・多
発行社								
東京書籍	全学年	198	108	25	1	117	1	101
	合計	198	108	25	1	117	1	101
教育出版	全学年	180	14	6	1	127	2	39
	合計	180	14	6	1	127	2	39
帝国書院	全学年	202	46	41	1	93	2	173
	合計	202	46	41	1	93	2	173
山川出版社	全学年	98	12	229	1	46	1	108
	合計	98	12	229	1	46	1	108
日本文教出版	全学年	96	74	90	3	107	3	54
	合計	96	74	90	3	107	3	54
学び舎	全学年	131	3	8	1	15	1	126
	合計	131	3	8	1	15	1	126
育鵬社	全学年	92	3	21	3	81	2	57
	合計	92	3	21	3	81	2	57
自由社	全学年	255	108	27	3	103	8	29
	合計	255	108	27	3	103	8	29

滋 教 審 第 3 号
令和3年(2021年)6月1日

滋賀県教育委員会 様

滋賀県教科用図書選定審議
会 長 白 井 重



令和3年度において義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択について(答申)

令和3年(2021年)4月9日付け滋教委幼小中第273号で諮問のありましたこのことについては、第2次答申として別紙のとおり答申します。

令和3年度 滋賀県教科用図書選定審議会への諮問～答申（第2次）

諮問事項 1

令和4年度に中学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料（新たに発行される教科用図書用）について、御意見を賜りたい。

答 申

令和3年度に作成する選定に必要な資料は、次のとおりとすること。

- ・「中学校教科用図書選定に必要な資料（令和3年度作成）」